十一月五雲能

十一月二十日（土）
午後一時始

13:00

女郎花

シテ 亀井雄二　ツレ 川瀬隆士

ワキ 村瀬提
間 内藤連

後見 佐野登　金森良充

地謡 石黒一之　田上充　野崎彦　能宮空

大鼓 原岡一之
小鼓 住駒充彦

太鼓 林雄一郎
笛 熊本俊太郎

内藤飛能　東藤光夫　川井雅之　大友順

14:20

膏薬煉

高野和憲

野村遼太

〈休憩十五分〉

15:00

半蔀

シテ 野月聡

ワキ 安田登
間 中村修一

後見 宝生和英　武田孝史　田崎甫

地謡 鶴田航己　藤井雅基　今井秋彦

大鼓 佃良太郎
小鼓 鳥山直也

笛 藤田貴寛

佐野弘宣　水上優　今井泰行　高橋憲正

16:35

紅葉狩

シテ 小林晋也　ツレ 藪克徳　〃 当山淳司　〃 金森隆晋

ワキ 則久英志
ワキツレ 大日方寛　〃 小林克都　〃 御厨誠吾
間 石田淡朗　〃 岡聡史

後見 辰巳満次郎　東川尚史　木谷哲也　朝倉大輔

地謡 石塚尚寿　金井賢郎　金野泰大

大鼓 高野孔明
小鼓 飯冨彰

太鼓 大川典良
笛 杉信太朗

和久荘太郎　小倉健太郎　小倉伸二郎　佐野玄宜

〈休憩十五分〉

終演予定十七時四十分頃

チケット料金
（税込）
一般　5,500円
学生　2,750円
（当日学生証提示）

ご購入は
オンラインチケット
または
宝生会事務局まで

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

ARTS for the future!

演目の解説

能「女郎花」（おみなめし）

岩清水八幡宮に詣でる僧は、八幡の麓に咲きに誇る女郎花の野原で、花を一本土産に折つて、行こうとして、一人の老人に呑てやめられます。僧は、老人は僧を古歌に取りをします。八幡宮の案内をします。女郎花にまつわる悲しい男が、宮の謂れを尋ねます。女郎花は、自分は男塚の老人と主の小野に誘はれ、女塚に頼まれます。風のあるのとは花に供養に、失せ夜の明かしの消えて女の僧の甲といえ霊籠めらのの霊が現れ、成仏できた事を喜び最後に共に語り、

能「半蔀」（はしとみ）

都北山紫野の雲林院に住む僧が立花供養を営むところに、一人の白い女が訪れます。僧の問い花に供養をすると、花の昔光源氏答えに白い顔の花を捧げ、女は花の名と、夕顔の五条の家の事を語りました。夕顔の五条辺りに出向くと、僧が教えて夕顔の棚の陰に消えました。すると、夕顔の精が現れ、光源氏の惟光が訪ねて来て、夕顔の棚の内に夜明けの前に立ち去りました。

能「紅葉狩」（もみじがり）

平維茂は信州戸隠山に鹿狩りに出掛け、山中で酒宴を催す美女達に出会います。不審に思い、遠慮する維茂を女達は引き留め、酒を勧め舞を舞います。維茂が寝入つてしまうのを見計らつた女の舞が急転すると、女達は消え失せますが、尚も維茂は寝入つています。ここに八幡宮の遣いが現れ、今の女は戸隠山の鬼女であるこの太刀で退治したまえと告げ、目を覚ましたと言つて太刀を授け、維茂は現れた鬼女と戦い、切り伏せて去つて行きます。